

優秀集落営農組織

組織名	所在地	設立年月	組 織 活 動 の 概 要
一般社団法人 かきぎ 笠木営農組合	日南町 笠木	平成 3 年 4 月	【集団設立の契機と発展の経過】 一般社団法人 笠木営農組合 - 平成 3 年 4 月、基盤整備終了後の営農体制を構築するために、笠木内 5 集落の農事組合を統合して任意団体を設立。平成 27 年 6 月、農地中間管理機構を通じて利用権設定を受けて地域内農地の中間管理、不動産取得を行うため、法人化。 有限会社 だんだん - 平成 18 年に集落営農の実働部隊として設立され、設立当初から、地域内が高齢化した場合に備えて地区外から雇用をし、営農活動の継続を図るべくいち早く社会保険制度と定年 65 歳を採用。 【集団活動の特徴と内容】 - 農地中間管理事業により集落内の全農地を一括して借り入れて耕作希望者へ特定農作業受委託契約により貸し付ける「まるっと方式」により 2 階建て構造とした。 - 地域に耕作放棄地が出ないように、集落全農地を笠木営農組合が管理機構から一括借入して、耕作したい農家に配分して耕作管理させる。 - その中で大半の農地を耕作する(有)だんだんは、社会保険の完備や社宅の整備、除雪の受託などの工夫により常勤のオペレーターを安定確保し、集落営農の実働部隊として機能している。 【活動の成果】 - このような仕組みをいち早く整えたことで、営農組合が平成 3 年に任意団体として発足以来、笠木内で新規の荒廃地は生じていない。
有限会社だんだん	日南町 笠木	平成 18 年 4 月	

組織名	所在地	設立年月	組 織 活 動 の 概 要
きたお 北尾水田生産組合	北栄町 北尾	平成 19 年 2 月	【集団設立の契機と発展の経過】 - 組合設立前は他集落における農作業受委託を請け負っており、各個人で農業機械を所有していたが、機械の老朽化や北尾集落の西側にある圃場の大区画化を契機に生産組合の先駆けとなる組合を設立。平成 19 年に集落東側の圃場所有者もメンバーに加わることとなり、北尾水田生産組合を設立した。 【集団活動の特徴と内容】 - 稲作を中心に二条大麦、大豆などの転作を行い、ブロックローテーションにより一年を通じて水田の活用を行う。遊休農地の発生は皆無で、組織力の高まりと共に作業の効率化も図られ、高齢化や世代交代が進む中でも連帯感が増し、充実した組織運営を実現した。 【活動の成果】 - 農業法人化に向けて従来の作付け以外に、秋冬ブロッコリーの作付けに取り組むことで、冬期の組合員の仕事確保ならびに女性参画を達成した。
農事組合法人 しおうじ 四王寺営農組合	倉吉市 大谷	平成 21 年 4 月	【集団設立の契機と発展の経過】 - 地域農業の中心となる担い手として安定した経営体を目指すことを目的に平成 21 年 4 月に倉吉市の 7 集落にまたがって設立。 【集団活動の特徴と内容】 - 水稻・大豆の生産に加え、白ネギ栽培や、遊休農地を活用し芝の生産に取り組む。 - 地域の子供たちと食農体験学習や、消費者と一緒に「親子で田植イベント」や「みのりの秋感謝祭」等のイベントを開催し、地域住民との交流を深めるとともに、水田農業に対する理解を深め後継者の育成に努める。 【活動の成果】 - 遊休農地の解消や共同作業による畦畔・水路整備等の環境保全に取り組み組合員相互の理解と連携を深め地域農業の活性化に努める。

組織名	所在地	設立年月	組 織 活 動 の 概 要
農事組合法人 まごころ農場ひろせ	鳥取市 国府町 広西	平成 27 年 4 月	【集団設立の契機と発展の経過】 - 平成 26 年産の大幅な米価下落を受け、個々の小規模経営のままでは経営が成り立たなくなることの危惧し、平成 27 年 1 月に集落営農の設立に向けて、推進委員会を設置。 「農事組合法人まごころ農場ひろせ」を平成 27 年 4 月に設立し、水稻 12ha、大豆 1ha、白ねぎ 17a の作付けで運営を開始。 - もち麦や白ねぎ等の新規作物の導入や機械整備により、単一経営から複合経営に転換することで経営の安定化を図った。 【集団活動の特徴と内容】 - ほ場ごとに農作業管理者を決め、収入差プレミアム方式で運営。 - 水稻・大豆を中心に、多品目を栽培。特に、大豆の種子生産（県採種ほ）や機能性食品として注目されているもち麦の栽培に力を入れる。 - 平成 27 年度に農地中間管理事業を活用して 13.9ha（地域農地面積の 34.1%）の耕地を集積。 - 同集落において高齢化等により耕作できなくなった方から農地を引き受け耕作することで、耕作放棄地の発生防止に貢献。 【活動の成果】 - 農用地の集積が図られ、遊休農地の解消が進んだ。 - もち麦や白ねぎ等の新規作物の導入や機械整備により、経営を複合化し安定化を図るなど、経営基盤の強化や後継者の周年雇用を実現。 - 大豆では最新技術を導入し、面積拡大を図りながら水田転作を進めるとともに、高品質な大豆種子の安定生産を行うなど、県内の大豆振興にも貢献。 - 水稻の特別栽培や環境保全型農業に取り組み、消費者への安心安全な農作物の提供や、地域農業の発展に貢献。